せつめい文を よんで えらぼう

小2／文章を よんで、いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

1　九九を よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

九九を おぼえる とき、はじめは 早口で となえて いました。でも、つっかえて ばかりで、早く いえるように なりません。そこで、ゆっくり 書いて おぼえました。すると、声に 出しても つっかえず、早く いえるように なりました。まちがいの 数は、あまり かわりませんでした。

1. 九九は、早口で となえると、まちがいが へって いく。
2. 九九は、ゆっくり 書くと、早く いえるように なる。
3. 九九は、早口で となえると、早く いえるように なる。
4. 九九は、ゆっくり 書くと、まちがいが へって いく。

2　かくれんぼを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

かくれんぼで、はじめは 小さく まるまって かくれて いました。でも、すぐに 見つかって しまいます。おにの うしろがわへ そっと 回って みると、なかなか 見つかりませんでした。見つからない こつは、かくれかたより、いる 場しょなのです。

1. かくれんぼは、小さく まるまると 見つかりにくい。
2. かくれんぼは、おにの うしろへ 回ると にげやすく なる。
3. かくれんぼは、おにの うしろへ 回ると 見つかりにくい。
4. かくれんぼは、小さく まるまると にげやすく なる。

3　紙ひこうきを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

紙ひこうきを 遠くへ とばそうと、強く なげると、すぐに 下へ おちて しまいました。前へ そっと おし出すように なげると、すうっと 遠くまで とびました。強く なげても、そっと なげても、空に いる 時間は あまり かわりません。

1. 紙ひこうきは、そっと 出すと 長く 空に いる。
2. 紙ひこうきは、強く なげると 長く 空に いる。
3. 紙ひこうきは、強く なげると 遠くまで とぶ。
4. 紙ひこうきは、そっと 出すと 遠くまで とぶ。

4　なわとびを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

なわとびが 長く つづかない 人は、高く とぼうと しがちです。でも、高く とぶと 足が すぐ つかれて、なわに ひっかかります。ひくく 小さく とんで、手首で なわを 回す ほうが、ずっと 長く とびつづけられます。

1. なわとびを 長く つづけるには、小さく とぶと よい。
2. なわとびを 長く つづけるには、なわを 少し みじかく すると よい。
3. なわとびを 長く つづけるには、毎日 とぶ ことが 大切だ。
4. なわとびを 長く つづけるには、前を 見て とぶと よい。

せつめい文を よんで えらぼう

小2／文章を よんで、いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

1　こおりの とけ方を よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

セーターを きると あたたかいので、セーターには ものを あたためる 力が あると 思いがちです。でも、こおりを セーターで つつむと、そのまま おくより とけにくく なります。セーターは、ねつを 通しにくく する ものなのです。

1. セーターは、ねつを 出入り しにくく する ものだ。
2. セーターは、ねつを 作り出して 体を あたためる。
3. こおりは、金ぞくの 上に おくと 早く とける。
4. こおりは、しおを かけると 早く とける。

2　ドミノを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

ドミノを ならべる とき、たおれないか 気に なって、まを せまく して いました。でも、せまいと、とちゅうで止まって しまいます。少し まを あけて ならべると、さいごまで たおれました。ならべるのに かかる 時間は、どちらも 同じくらいでした。

1. ドミノは、まを 少し あけると 早く ならべられる。
2. ドミノは、まを せまく すると さいごまで たおれる。
3. ドミノは、まを 少し あけると さいごまで たおれる。
4. ドミノは、まを せまく すると 早く ならべられる。

3　しゅくだいを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

しゅくだいを、かんたんな ものから やって いました。すると、さいごに むずかしい ものが のこって、なかなか おわりません。むずかしい ものから やって みると、早く おわりました。まちがいの 数は 同じでした。

1. しゅくだいは、かんたんな ものから やると まちがいが へる。
2. しゅくだいは、むずかしい ものから やると 早く おわる。
3. しゅくだいは、かんたんな ものから やると 早く おわる。
4. しゅくだいは、むずかしい ものから やると まちがいが へる。

4　しんけいすいじゃくを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

しんけいすいじゃくで、めくった カードの 場しょを 目で 見て おぼえようと しても、すぐに わすれました。「右の はしは ハートの 3」と、ことばに して 心の 中で 言うと、よく おぼえて いられました。ゲームに かかる 時間は、かわりませんでした。

1. カードは、目で 見て おぼえると 早く ゲームが おわる。
2. カードは、ことばに して 言うと 早く ゲームが おわる。
3. カードは、目で 見て おぼえると よく おぼえられる。
4. カードは、ことばに して 言うと よく おぼえられる。

せつめい文を よんで えらぼう

小2／文章を よんで、いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

1　友だちの 名前を よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

あたらしい クラスで、友だちの 名前を 何回も 心の 中で となえて おぼえようと しました。でも、つぎの 日には わすれて います。すぐに 名前を よんで 話しかけるように すると、ふしぎと わすれなく なりました。

1. 名前は、よんで 話しかけると なかよく なれる。
2. 名前は、心の 中で となえると おぼえられる。
3. 名前は、よんで 話しかけると おぼえられる。
4. 名前は、心の 中で となえると なかよく なれる。

2　たんぽぽの 花を よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

たんぽぽの 花は、一ど さいたら、そのまま ひらいて いると 思われがちです。でも、朝に ひらいて 夕方に とじる ことを、何日か くりかえします。そして、さいごに とじた あとで、わた毛の 玉が できるのです。

1. たんぽぽの 花は、小さな 花が たくさん あつまった ものだ。
2. たんぽぽの ねは、土の 中で とても 長く のびる。
3. たんぽぽの わた毛は、雨の 日には とじて いる。
4. たんぽぽの 花は、何日か ひらいたり とじたり する。

3　ほうきを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

きょうしつの そうじで、ほうきを 強く うごかして はいて いました。すると、ごみが とびちって、かえって 時間が かかります。ゆっくり はくように すると、とびちらずに、早く おわりました。ごみの のこり方は、どちらも 同じくらいでした。

1. ほうきは、ゆっくり はくと 早く おわる。
2. ほうきは、強く はくと ごみが のこらない。
3. ほうきは、ゆっくり はくと ごみが のこらない。
4. ほうきは、強く はくと 早く おわる。

4　手あらいを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

手を あらう ときには、あたたかい おゆの ほうが、よごれが よく おちると 思いがちです。でも、つめたい 水でも おゆでも、おちかたは あまり かわりません。大きく かわるのは、せっけんで こする 時間の 長さです。

1. 手の よごれは、あたたかい おゆの ほうが おちる。
2. 手の よごれの おちかたは、こする 長さで かわる。
3. 手の よごれは、ぬれた 手の ほうが つきやすい。
4. 手の よごれは、つめの 間に いちばん のこりやすい。

せつめい文を よんで えらぼう

小2／文章を よんで、いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

1　金魚の 水を よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

金魚の 水が よごれて きたら、ぜんぶ 入れかえたく なります。でも、一どに ぜんぶ かえると、水の ようすが 大きく かわって、金魚が よわる ことが あります。水は、少しずつ かえる ほうが、金魚に やさしいのです。

1. 金魚の 水そうは、まどの そばに おくと よごれやすい。
2. 金魚の 水は、くんで ひとばん おいてから 入れる。
3. 金魚の 水は、何回かに 分けて 少しずつ かえる。
4. 金魚の 水は、こまめに きれいに する ことが 大切だ。

2　きゅうしょくを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

きゅうしょくを 早く くばろうと、くばる 人を ふやしました。でも、ぶつかって しまい、かえって おそく なりました。とりに くる じゅんばんを きめると、早く くばれるように なりました。こぼす 人の 数は、あまり かわりません。

1. きゅうしょくは、じゅんばんを きめると 早く くばれる。
2. きゅうしょくは、くばる 人を ふやすと こぼれにくい。
3. きゅうしょくは、じゅんばんを きめると こぼれにくい。
4. きゅうしょくは、くばる 人を ふやすと 早く くばれる。

3　こまを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

こまを 長く 回したくて、ひもを 強く 引いて いました。でも、まき方が ゆるいと、こまは すぐに たおれて しまいます。ひもを すきまなく きつく まいて、ふつうに 引くと、長く 回るように なりました。

1. こまは、ひもを 強く 引くと まっすぐ 立つ。
2. こまは、ひもを きつく まくと まっすぐ 立つ。
3. こまは、ひもを 強く 引くと 長く 回る。
4. こまは、ひもを きつく まくと 長く 回る。

4　ふうせんを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

ふくらませた ふうせんを、さむい 外に しばらく おくと、少し しぼんで 小さく なります。空気が もれた わけでは ありません。中の 空気は、ひえると ちぢみ、あたたまると ふくらむのです。

1. ふうせんは、かみの 毛で こすると かべに つく。
2. ふうせんの 中の 空気は、ひえると ちぢむ。
3. ふうせんは、外に おくと 空気が もれて しぼむ。
4. ヘリウムの ふうせんは、空気より かるくて うく。

せつめい文を よんで えらぼう

小2／文章を よんで、いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

1　ぬりえを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

ぬりえで、はみ出さないように ゆっくり ぬって いました。それでも、ふちから はみ出して しまいます。先に ふちを こい 色で なぞってから、中を ぬると、はみ出さなく なりました。色の こさは、どちらの ぬり方でも かわりません。

1 ぬりえは、ゆっくり ぬると はみ出さない。

2 ぬりえは、ふちを 先に なぞると 色が こく なる。

3 ぬりえは、ふちを 先に なぞると はみ出さない。

4 ぬりえは、ゆっくり ぬると 色が こく なる。

2　よみきかせを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

小さな 弟に 本を 読む とき、大きな 声で 読むと、弟は すぐに ほかの ことを はじめて しまいます。小さな 声で ゆっくり 読むと、顔を 近づけて、しずかに さいごまで 聞いて くれました。

1 弟は、小さな 声で 読むと しずかに 聞く。

2 弟は、小さな 声で 読むと すぐに ねむる。

3 弟は、大きな 声で 読むと すぐに ねむる。

4 弟は、大きな 声で 読むと しずかに 聞く。

3　クモの あみを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

クモの あみには、虫が ひっかかります。では、なぜ クモは 自分の あみに ひっかからないのでしょう。あみには、ねばねばする 糸と、ねばらない 糸が あります。クモは、ねばらない 糸を えらんで 歩いて いるのです。

1 クモの 足は、こん虫より 多い 8本だ。

2 クモは、ねばらない 糸の 上を 歩いて いる。

3 クモの 糸は、とても 細いのに 切れにくい。

4 クモは、古く なった あみを 食べて しまう。

4　ヒマワリを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

ヒマワリの 花は、お日さまを おいかけて うごくと よく 言われます。でも、お日さまを おって うごくのは、花が さく 前の わかい ころです。花が さいた あとは、ほとんどが 東を むいた ままです。

1 ヒマワリには、せが 3メートルに なる ものも ある。

2 ヒマワリの たねは、うずまきのように ならぶ。

3 さいた ヒマワリの 花は、お日さまを おって うごく。

4 さいた ヒマワリの 花は、多くが 東を むいて いる。